

## 三卷本『色葉字類抄』に収録された長畳字の性質について (二)

藤本 灯

場合がある。

筆者は、前稿において、三卷本『色葉字類抄』畳字部中の「長畳字(漢字三字以上から成る熟語)」についての調査を行ったが、その大略は、長畳字という語の一群を提示する作業に終了してしまつた。そこで本稿では、前稿「3用例」において示せなかつた用例を新たに追加し、後日の

考究に資することとした。

### 《凡例》

概ね前稿と同様であるが、一部補足する。

\* 割注、注文、詞書(山家集)をへくによつて示した。

\* 内容上、該当語と関連深い前後の文脈を省略する場合は、(略)によつて示した。

\* 前稿で用いた文献の遺漏を補う場合、文献名に※の記号を冠して示した。

\* 原則として漢字表記の用例を掲げたが、仮名書きの例を示した

\* 表記は概ね使用した文献の本文に従つたが、凡例等によつて底本の表記が再現可能な場合は、可能な限り復元を試みた。また、漢字を現行の字体に改めた場合がある。

\* 「愚管抄」の「阿波国文庫本(巻三)」(五三〇頁以降)中の用例は用例数に含めなかつた。

\* 今回の調査で新たに用例が得られなかつた項目については、見出し語の表示を省略した。

「一有若亡」

○大嘗会者祭何神乎(略)名目有若亡事歟(貴嶺問答よ)

○アハレくく有若亡、有名無実ナドイフコトバラ人ノ口ニツケテ云

ハ、タゞコレウニコソ(愚管抄356)

○有若亡ありがた(消息詞390)

○有若亡之身、豈可堪忍乎(雑筆往来426)

○有若己(1,2)(大乘院雜筆集456)

○其弟共アマタアレドモ、右大将宗盛ヲ始トシテ、有若亡ノ人共ニテ、一人トシテ日本國ノ大將軍ニ可成レ、人ノミヘヌソヤ(平家物語上487)

「2 一字千金」

○登科兩字千金直(菅家文直213) \*全二例

○一字千金万々金(江吏部集222)

○てんだいのぞす、一じきさんのちからをもつて、やうくくだめたてまつり(曾我物語495)

○一字千金之恩ヲ不忘ト、広嗣鎮マリ給ニケリ(平家物語下48) \*全二例

「3 一人當千」

○一人當千の馬のたてやうなり(宇治拾遺物語327)

○判官と御内に一人當千の者にて候(義経記163) \*ほか「一人たうせん」四例

○まことに一人當千とぞ見へける(古今著聞集278)

○爱国司云、一人當千ト云馬ノ立様ナリ、非直也人欺、不可咎ト制止シテ(古事談14) \*全二例

○容顏美麗也。可謂一人當千(雜筆往來45)

○一人當千(ヨキヒトノコトナリ) (雜筆略注453)

○一人たうぜんといふ事、このときよりはじまりける(曾我物語157)

\*全二例

○畠山庄司次郎重忠ニ六代ノ孫、武藏國ニ生長テ、新田殿ニ一人當千ト憑レタリシ篠塚伊賀守愛ニアリ(太平記238) \*全三例

○明俊、一來二人ニウタル、者、八十三人也。実ニ一人當千ノ兵ナリ(平家物語上376) \*全七例

○誠にまことにゆゝしく候。一人當千とは是をこそ申らめ(保元物語83) \*全二例

「4 一搦手半」

○金堂の丈六の弥勒の御身の中に、金銅一搦手半の孔雀明王像一体をこめたてまつらる(古今著聞集72)

○薬縁法師者。近江国高島郡也。俗姓秦氏。生為人奴。不得自存。常勤驱役。不知仏事。只一生間。所造綵色一搦手半阿弥陀三尊而已。捨遣往生伝中123

○あやしみてこの木を切て、一搦手半の薬師仏をつくりたてまつりて(続古事談16) \*全三例

○一搦者、從母肘節、至于其腕節也。手半者、其手之半分量也。所謂人在母胎時、至于第廿七日、人相皆備。以手掩面、踰踰而坐。

其時身長、与母一搦手半齋等也。当周時一尺三寸。而則造仏、取一搦手半者、胎内等身也。如此一搦手半身、滿其卅八七日已出生。由

養育故、成八尺・五尺身。造仏亦爾。得一搦手半像、由供養故成六

・八尺等之身(東山往來6) \*ほか一例

○(略)一搦手半ノ薬師百体、等身ノ薬師一像、并釈迦阿弥陀ノ像、

各造立供養セラレケリ(平家物語上88)\*全二例

○奉造観音像。其長一搦手半。其数一千「虫損」体(本朝新修往生伝88)

(○一搦手(類聚名義抄(圖書寮本)156))

「5 一生不犯」

○仏事をせられけるに、仏前にて僧に鐘を打せて、一生不犯なるをえらびて、講を行はれけるに(宇治拾遺物語88)\*全二例

○南都に、又一生不犯の尼ありけり(古今著聞集88)\*全四例

○砂門永快者。金峰山千手院之住僧也。一生不犯。兩界之行。不敢交衆。亦好独居(拾遺往生伝下88)\*ほか「一生無犯」一例

○於天皇寺拜堂之時。寺三綱指一座曰。是一生不犯人之所昇也。垣舜再三観念。遂昇其座(続本朝往生伝11)

(○三時念誦。昼夜誦誦法花経。僧都一生無犯。但以人指磨触女人身

(大日本国法花経験記中88))

○此中「天台ノ一ノ箱」ト名テ、一生不犯ノ人一人シテ見事ニテ、

輒ク開ク座主希ナリ(平家物語上88)\*全三例

「7 反魂香」

○よきはかりにて、薬は合て服すべきなり。反魂香と云ものあり。

死人の魂をかへす香也。一鉢もたがひぬれば来たる事なし(続古事談

5-10)

(○返魂樹 十州記曰聚窟洲有返魂樹伐其根心於玉釜中煮取汁煎之令

可丸名曰驚精香或名震靈丸或名反生香或名却死香屍在地聞氣乃活(幼

学指南抄卷二七)

「8 傍若無人」

○事外ニ英雄之詞ヲコソ稱シ侍シカ。文場気色如何。答云、傍若無人也(江談抄5-71)

○傍若無人(消息詞390)

○殆可謂傍若無人候(新札往来472)

○雖傍若無人、不如権跡子孫永扇門風、苗裔共継家業(尺素往来88)

○佐渡判官入道ハ、我身ニ取テ仁木ニ差タル宿意ハナケレ共、餘ニ

傍若無人ナル振舞ヲ、狼藉ナリト目ニカケ、ルトキ也(太平記88)

\*全四例

○傍若無人(大乘院雜筆集88)

○此ヲ被申ケルハ、傍若無人ノ体、返々謂レナシ(平家物語上27)\*

全三例

「10 万死一生」

○其「シウトノ三守」右大臣。所勞付ニテ万死一生也(諸事表白579)

○ゆみやをとり、よをわたると申せども、ばんしーしやうは、いち

ごーどんごそうけたまわれ(曾我物語88)

○仙人祖沈病。万死一生(大日本国法花経験記中88)\*全三例

○能盛、親盛ハ痛手負テ、万死一生トコソ承リ候へ(平家物語下172)

\*全二例

○暫其程を過ぎむとためらひける程に、宿運や尽にけん、重病をう

けて、万死一生なりけるが(保元物語172)

「11女御代」

○女御代の御ことなど、すべてよのいみじき大事なり(栄花物語上10)

○\*全一六例

○大相国モトノ妻ノ腹ニヲノコゴハエナクテ、女御代トテムスメヲモチタリケルヲ入内ノ心ザシフカク(愚管抄238)

○今度召女御代被渡雖為先□已吉例也(富家語100)

○サレド後ニハ女御代ニテ、東ノ御方トソ申ケル(平家物語上594)

○女御代、花山よりいささる(増鏡34)\*全四例

「12人非人」

○此一門ニ非ザル者ハ、男モ女モ法師モ尼モ人非人タルベシ(平家物語上31)

「13長秋宮」\*「長秋」の例は省略した

○長秋宮望月之簾(江都督納言願文集28)\*ほか「長秋之宮」二例

「14長大息」

○又此日他所有僧。長大息曰。(略)後拾遺往生伝上中

○聞舍弟明快之補僧綱。長大息云。過去迦葉仏法中。同時発心之者三人。久沈生死。未得出離(拾遺往生伝上)\*「長大息」全二例、「長大息」二例

「15知恩報恩」

○運籌帷帳、何疑於知恩報恩(菅家文章(散文篇)55)\*全三例

○これらみな、古来の仏祖の、古来の仏祖を報謝してきたる知恩報恩の儀なり(正法眼蔵227)

○仏弟子は必四恩をしつて、知恩・報恩ほうずべし(日蓮集(開目抄)338)\*全三例

「17理不盡」

○就嫌疑、不可致理不盡之沙汰(雜筆往来中33)

○懸シ後ハ、三井寺モ弥意趣深シテ、動バ戒壇ノ事ヲ申達セントシ、山門モ又以前ノ噉儀ヲ例トシテ、理不盡ニ是ヲ欲徹却ト(太平記②5)

「18利口覆國」

○利口の邦家をくつがへすは君子にくむと云り(人となる道885)

○(悪利口之覆邦家(和漢朗詠集162))

「19被及給哉」

○(乞記大概、必可及給(釈氏往来198))

○(僧侶交名、所作注文、可及給(釈氏往来211))

「21和光同塵」

○和光同塵して念仏をすゝめ給はんが為に神と現じ給ふなり(一遍上)

人語録(146)

○孝経註曰。和其光。同其塵(管蠡鈔157)

○わくわうどうじんはけちえんのはじめ、八さうじやうだうはりもつのおはり、なに事か御いのりのかんおうなからんや(義経記288)

○和光同塵之利物。如紫金在晴沙(江都督納言願文集134)

○(和光同塵結縁始と云事を)いかなればちりにまじりてますか、みつかふる人はきよまはるらん(山家集160)

○サレバ和光同塵こそ、諸仏ノ慈悲ノ極リナレト信ジテ、如此行儀異様ナレドモ、年久クシツケ侍也(沙石集89)\*全三例

○無而歎有<sup>レ</sup>仏<sup>ヲ</sup>乃至六道四生、和光同塵随類變化<sup>ノ</sup>形<sup>ヲ</sup>、(諸事表白587)\*全二例

○是諸仏方便。和光同塵耳。春朝在一条馬場。出舍死去(大日本国法花経験記上22)

○和光同塵ノ月明カニ心ノ闇ヲヤ照スラン(太平記②19)\*全三例

○我山者、是大悲権現、和光同塵之素意候(平家物語上76)\*全九例

○夫和光同塵の方便は、抜苦与楽の為なれば、大慈大悲の神慮のたすけ、などかあはれみ給はざらん(保元物語58)

「22 王事靡盬」

○我是日本国王使也。王事靡盬(江談抄3)

○王事靡盬。履氷従事(江都督納言願文集290)

○王事靡盬、盍鑿於此(古今著聞集233)

○唯従王事之靡盬。偷憑仏力之不空(釈氏往来206)

○王事母盬、縦恨ヲ以テ朝敵ノ身ニナル共、戴天欺天命哉(太平記

②136)\*ほか「王事母盬」一例)

○官軍ツバキテ追懸シニ、王事靡盬<sup>ト</sup>ナケレバ、鵲鳩帆柱之上ニ来居シテ、事故ナク備前国府ニ付ニケリ(平家物語下4)

○親治をはじめとして、以下の郎等ども、王事もろき事なければにや、十二人おめくといけどりにせられるこそむざんなれ(保元物語72)

「23 可被分給」

○仏ハ、御弟子、其ノ数多カリ。我レニ少分ヲ可分給シ(※今昔物語集①74-13)

○焼香又以面白存候(略)縦雖兜樓婆、畢力迎、及海岸六鉢、准仙之百和。不可勝於此候。御所持分、不論新旧、可頒賜候(尺素往来491)

「24 賢不肖」

○賢不肖ともに進退にわづらふべからざるものなり(正法眼藏227)\*全二例

「25 邯鄲歩」

○于時門下独有不遇者。歩邯鄲而遺恨。交納綺而多慙(江吏部集202)

○邯鄲歩(※世俗諺文)

「28 甲斐元」

○決定可及刎頸候へハ、無甲斐命惜候之故、勅諭ハ縱雖禁獄流罪命ニハ依不可及、乍悦所馳參也云云(古事談181)

○数万ノ官軍庭上ニ有ケレドモ、救ハムトスルニ甲斐無シ(平家物語上498)\*「甲斐無シ」全二例、ほか「無甲斐」「甲斐ナシ」「カヒナシ」

「31 堂童子」

○やましなでらのそうども、堂童子までかつげ物などたまはず(栄花物語上446)\*全二例

○(略)堂童子、治部省、玄蕃寮、掃部寮、謚取等祿物(十二月消息331)

○堂童子・優婆塞、忿々走来言(日本霊異記386)

○導師、高座にのぼりぬれば、堂童子、花<sub>一</sub>をわか(増鏡372)

「32 大作家」

○父豊浦ノ大作家ニ火ヲサシテ焼死ヌ(愚管抄63)\*全二例

○緒嗣大作家在法住寺北辺瓦坂東(江談抄912)\*全二例

○いかでかおのれ程のやつめは、大作家をばかたじけなく打まいらせけるぞ(古今著聞集472)

○希代ノ見物ナルベシトテ貴賤ノ男女華ル事不斜、公家ニハ撰祿大作家、門跡ハ当座主槐井二品法親王(略)(太平記63)

○サリトテモ、宮原ヘモ打入り、大作家ヘモ乱入テ狼藉ヲモセバコソ奇怪ナラメ(平家物語下161)

「33 太皇太后」

○十六日に太皇太后宮女院にならせ給ぬ(栄花物語下52)\*全五例

○然則太皇太后者、皇帝之族曾祖姑、天子之宜無服制者也(菅家文章(散文篇124)\*全七例)

○太皇太后(謂天子祖母登后位者為太皇太妣。居夫人位者為太皇太夫人也)(貴嶺問答448)

○今昔、三條ノ大皇太后宮ト申スハ、三條ノ関白大政大臣ト申ケル人ノ御娘也(※今昔物語集④99・11・12)\*全二例

○右大臣藤原良相者。贈太政大臣正一位冬嗣第五子也。姉大皇太后。

兄大政大臣忠仁公。並与大臣為同胞矣。童稚而有遠識。弱冠而遊太

学(拾遺往生伝中13)

○太皇太后官職(拾要抄531)

○太皇太后(尊修寺本)橘嘉智子(水鏡208)

○太皇太后官大夫(平家物語下89)

「34 蟻娘返車」

○譬如。蟻娘對車。蚊虻負獄(性靈集395)

○(訂正)蟻娘廻車(※世俗諺文)

○(○)かれが此比ぶげんにて、すけつねにおもひかゝ覽は、たうらうがをのを取て、りうしやにむかひ、ちちうがあみをはりて、ほうわう

をまつふぜい也。あわれなる(曾我物語329)

○蠅ノ斧ヲ以テ立車ヲ返シ、嬰兒ノ蠅ヲ以テ巨海ヲ斥ス（平家物語上367）

○縦<sup>レ</sup>以嬰兒ノ蠅<sup>ヲ</sup>、量<sup>ヲ</sup>巨海<sup>ヲ</sup>、取<sup>テ</sup>蠅ノ斧<sup>ヲ</sup>、如向立車<sup>ニ</sup>（平家物語下36）

○蚊虻群<sup>ヲ</sup>雷<sup>ヲ</sup>、蠅娘集<sup>ヲ</sup>如<sup>シ</sup>有<sup>ル</sup>覆<sup>テ</sup>車<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>（平家物語上268）

「35 増上慢」

○次に一行は道門増上慢の者を明す（日蓮集（開目抄）390）\*全三例

○増上慢（類聚名義抄（図書寮本）248）

「39 無上道」

○法花経には「我不愛身命。但惜無上道」とす（一遍上人語録10）

3)

○「我不愛身命。但惜無上道」の義なり（古今著聞集88）

○偏厭有為世。唯願無上道（後拾遺往生伝上18）

○我無上道ヲ成ジテバ、一切衆生ヲ以テ、伴トスベシ（沙石集136）\*

全一例

○但説<sup>レ</sup>無上道<sup>ノ</sup>時<sup>ヲ</sup>（諸事表白597）

○さて堂のひつじさるの桂木にのぼりて、「我不愛身命但惜無上道」

と誦して谷へ身を投げれば（続古事談4-26）

○每自作是念、以何令衆生得入無上道速成就仏身（真言内證義239）

○花厳経ニ「聞此法歡喜信心無疑者、速成無上道、与諸如来等」ト

オホセラレテ候（親鸞集（消息）176）

○正直捨方便但説無上道（日蓮集（消息文抄）468）

○不期今生來。只念無上道（大日本国法花経験記中73）\*全三例

○以此供養佛像、成無上道（日本靈異記494）

○此身の命を惜ず、只無上道を願べしとぞ仏も説せ給ふなれ（保元物語159）

○わかみはゆめにおとらねと、無上たうをそをしむべき（梁塵秘抄120）

0)

「42 孟蘭盆」

○又七月十四日ノ夜、孟蘭盆ノツトメノ為ニ御堂ニ參ジテ（沙石集44）

3)

○七月なかばのうら盆、のぞむ所、誰にかあらん（曾我物語399）

○十四日孟蘭盆（太平記②411）

○今召向盆拜是可准三宝礼。又二度有何事哉。孟蘭盆ハ為親也（中外抄下21）

○次来十五日孟蘭盆以前者（略）（蒙求賢鷹往来354）

○次来十五日孟蘭盆以前者（略）（蒙求賢鷹往来354）

「43 有名無實」

○アハレノ有若亡、有名無実ナドイフコトバヤ人ノロニツケテ云

ハ、タゞコレウニコソ（愚管抄386）

○すでにしやうごうはやくくれて、かいぢやうゑの三がくはなのみのこりて、うけうむにん、うみやうむしつなり（曾我物語421）

○未来の父母を扶ざれば、外家の聖賢は有名無実なり（日蓮集 開目

抄)388)\*全二例

「44久修練行」

○たとへば、初心始学にもあれ、久修練行にもあれ、伝道授業の機をうることもあり、機をえざることもあり(正法眼蔵277)\*全三例

○久修練行之室、書、勇猛精進之文(諸事表白602)

○カ、ル道心堅固ノ聖人、久修練業ノ尊宿ダニモ、遂ガタキ発心修行ノ道ナルニ、家富若キ人ノ浮世ノ継ヲ離レテ、永ク隱遁ノ身ト成ニケル、左衛門佐入道ノ心ノ程コソ難有ケレ(太平記③385)

「46不垂堂」↓75参照

○史記曰。千金子不垂堂。百金子不騎衛(管蠡鈔286)

○郷果村間皆潤屋 陶家兒子不垂堂(菊散一叢金)(江談抄411)

○陶家兒子不垂堂(和漢朗詠集116)

「47不足言」

○其琴非制者。不足言事歎(貴嶺問答450)\*全二例

○不足言ト云ハコレナリ(愚管抄336)

○以言聞之微咲不敢陳一言。大略不足言歎(江談抄498)\*全二例

○不足言之至也云々(十二月消息315)\*全二例

○是ハ不足言ノ人、五闍提等ノ在世ノ惡比丘ノ如ク、決定地獄ノ心

ロバエ也(正法眼蔵隨聞記422)

○經釈ヲ読、学セザルトモガラ、往生不定ノヨシノコト、コノ條、

スコブル不足言ノ義トイヒツベシ(親鸞集(歎異抄)200)

○不抽忠勤者、不足言事歎(雜筆往来425)

○「略」東大寺の大仏をぬすむべきなり」とあざけりければ、聖人、

不足言にてやみにけり(続古事談418)

○是ハセメテ俗人ナレバ不足言(太平記①413)

「48不知恩」

○不知彼恩。忽弃置我(貴嶺問答451)

○若不赴彼請。恐非知恩(拾遺往生伝下二)

○而といえども、過去未來をしらざれば、父母・主君・師匠の後世をもたすけず、不知恩の者なり(日蓮集開目抄329)\*全五例

「50不得意」

○不得其意事候哉(山密往来382)

○一夜御琵琶之調、有不得意之條(東山往来43)\*全三例

○而臨書写之時、其料紙不足。尤所不得意也(東山往来拾遺457)\*全

二例

○同五月廿一日。病者云。持仏堂仏。只今奉安極楽。看病不得意念

仏往生伝30)

「51不思議」

○阿弥陀仏の本願他力の不思議の身をば、いか程のちからとしりたるやらん(一言芳談200)



○他力称名は不思議の一行なり(一遍上人語録90)\*全二三例  
○不思議の事し給親かな(宇治拾遺物語97)

○人々皆、不思議之由、申合候者也(鎌倉往来566)

○きやつはふしぎのものゝいひやうかな(義経記88)\*全二二例

○不思議ナリトオボシメシナガラ車ヲヤルニ(教訓抄33)

○サル不思議アリシカド世ニ沙汰モナシ(愚管抄24)\*全八例

○かゝる不思議こそありしか(古今著聞集104)\*全三二例

○大鳥無毛ナルヲ自地中掘出タリケリ、不思議事也、イカ、スヘキ

ト評定之処(古事談188)\*全八例

○事ハ実ニ不思議ナレドモ、和讃ノ言ハイトヨロシカラス(沙石集55

6)\*全一一例

○しかあれども、如来の正法、もとより不思議の大功德力をそなえ

て、ときいたればその利土にひろまる(正法眼蔵86)

○然レドモ、定レル不思議ニテ、魚、此処ヲ渡レバ、必ず龍ト成ル

也(正法眼蔵隨聞記224)

○法之不思議。用之无窮尽(性靈集336)\*全二例

○其、人、不思議也(諸事表白579)\*全四例

○醍醐味ト称スレドモ、是ハ果徳ノ上ノ不思議ノ妙菓也(真言内證義

227)

○六七千里ノアヒダ、一時ニオコリアヒニシ、時ノイタリ運ノ極ヌ

ルハカ、ルコトニコント不思議ニモ侍シモノ哉(神皇正統記15)

○イツ、ノ不思議ヲトクナカニ仏法不思議ニシクゾナキ(親鸞集(三

帖和讃)73)\*全三三例

○タゞ不思議ト信ジツルウヘハ、トカク御ハカラヒアルベカラズ候  
(親鸞集(消息)129)\*全一四例

○タダシ、業報カギリアルコトナレバ、イカナル不思議ノコトニモ

アヒ、マタ病悩苦痛セメテ、正念ニ住セズシテラハラン、念仏マウ

スコトカタシ(親鸞集(歎異抄)207)\*全一七例

○この事、きたいのせうじ、天下のふしぎとぞ見えし(曾我物語50

\*全五三例

○漢高祖と云御門の世をとり給ふ事は、ことくは不実不思議の人

にておはしけれど(続古事談918)\*全六例

○不思議(大乘院雜筆集546)

○上人十廿日不食籠動。是不思議。上人断食誦經実如(大日本国法花

經験記中か)

○卦ル不思議ヲ承ル、誠ニテ候ヤラン(太平記①8)\*全一二五例

○最第一の大不思議なり(日蓮集(開目抄)346)\*全六例

○かゝる不思議の者共を、諸山諸寺の別当と仰でもてなす、故に、

民の手に渡り現身に恥に値ぬ(日蓮集(消息文抄)447)\*全四例

○即是心波若経不思議也(日本靈異記108)\*全六例

○於窪井本房聞之。凡隔本処十四五里。是仏不思議力歎(念仏往生伝

48)

○この真実語、不思議なり(人となる道333)

○此御薬を不思議に得て、あまの命の安心を決定する事の有がたけ

れ(秘密安心又略360)\*全五例

○舞人ニハ左ニ光末、(指步テ梓打振タリシ、不思議也キ。太平楽

ナトコソイミシカリシカ(富家語29)

○ソレヲコソ希代ノ不思議ト承ニ、コレハ猶勝レタリ(平家物語上23)

\*全八二例、ほか「不思議」「不思議」「フシギ」

○又信西吾朝の詞を以て奏しければ、君を始まいらせて供奉の人々、不思議の思をなせり(平治物語)\*全五例

○二重を射通すだにも不思議におぼえ候に、伊藤五が鎧の袖うらかきて候(保元物語100)\*全六例

○サテモ此処ニ宿スル事不思議也(反故集34)\*全三例

○かたみにかたらふ人はあらざりけめど、おなじもんも色も侍らざりけるぞ、ふしぎなる増鏡15)

○これは般若の不思議なりとなん申し心に万法みなむなしと思て(水鏡(専修寺本)121)

○不思議(類聚名義抄(図書寮本)72)

「52 不対面」

○日来申サムト思ツルニ、不対面ザリツレバ不申ズ、己レガ命生給

ヘリシ喜ビ申サム(※今昔物語集①380)

「53 不可悦」

○非分之物不可望。過分之慶不可悦矣(東山往来)

「54 不覺人」

○紙ぎぬにえもんつくろふ程の者は、ふかく人にて有なり(一言芳談

19)\*ほか「不覺人」一例

○あれほどのふかくじんの弓やとるほうこうをするか(義経記15)\*全八例

○日本第一ノ不覺人ナリケル人ヲタノミテ、カ、ル事ヲシ出ツル(愚管抄23)

○文時大令歎示給不覺人之由。時人又以難之傾之(江談抄113)

○日ぼん一のふかく人、かやうにあるべしとおもひしたがはず、人にてはなかりけり(曾我物語38)\*「ふかく人」全三例、「ふかくじん」一例

○敵ニ生取ル、程ノ不覺仁ヲバ、生テナニ、カハセム(平家物語上602)

○信頼といふ不覺仁が、あの門やぶられくるぞや(平治物語225)\*全六例

○左大臣殿と云不覺仁にさへられて(保元物語171)

「55 不中用」

○一条撰政与朝成卿「左大臣定方男」共競望參議之時(天曆)、多陳伊尹不中用之由、其後朝成參一条撰政第(古事談212)

○不中用(消息詞390)

○旧往来者、当時不中用之物也(常途往来403)

○不中用者也。可被棄置(雜筆往来427)

○不中用(物ニアタラサルコトナリ)(雜筆略注155)

「56不退轉」

○一夏のあひだはいかにもころろに入つとめ、たひてんなくおこなひてあたりける(義経記110)

○長日護摩御退轉ナクヲコナハセヲハシマシケリ(愚管抄238)

○嗟呼十念不退轉(江都督納言願文集149)\*「不退轉」全四例、「不退轉」一例

○每朝大仏頂理趣經尊勝陀羅尼二千遍。不動慈悲呪一万遍。即至臨終。永不退轉(高野山往生伝20)

○云手習、云読書、一向廃亡。頻雖突鼻候、猶不退轉候(御慶往来64)

8) ○其行退轉する事なし(古今著聞集87)

○毎日講唯識論。永不退轉(後拾遺往生伝下2)\*ほか「不敢退轉」一例

○告門弟云。今年命期也。及孟秋之天。果而受病。若干行業等。不能退轉(三外往生記12)\*ほか「未曾退轉」「敢無退轉」各一例

○只毎日燃八曼荼羅香一前。向西方供養阿弥陀仏。雖有急事。敢不退轉。只此一事。其平生之行也云々(拾遺往生伝中19)\*「不退轉」全二例、「未曾退轉」一例

○天平宝字以来、更以無退轉(十二月消息333)

○この行持を不退轉ならん形骸觸摩は、生時死時おなじく七宝塔におさめ、一切人天皆応供養の功德なり(正法眼蔵33)

○悉ク叶<sup>アトイ</sup>不退轉<sup>事</sup>実<sup>不</sup>審<sup>候</sup>(諸事表白600)\*全一二例

○此心不退轉者、天魔外道モ障難ヲ作ス便リ無シ(真言内證義326)

○今古無退轉勤行(新札往来462)

○イノチツキンマデ念仏退轉セズシテ往生スベシ(親鸞集(歎異抄)277)

○嵯峨清涼寺大念仏者、古今過現、不退轉之勤行(尺素往来40)

○更々不可退轉(雜筆往来138)

○又發誓願。生々世々值遇佛法。書写読誦一乘妙法。乃至成仏永不退轉(大日本国法花経験記上13)\*「不退轉」全二例、「無退轉」一例

○今度、強盛の菩提心ををこして退轉せじと願ひぬ(日蓮集(開目抄)352)

○毎日六万返念仏無退轉(念仏往生伝48)\*全二例

○菩提行願不退轉(平家物語下533)\*ほか「不退轉地」一例

「57不可思議」

○他力の称名は不可思議の一行なり(遍上人語録106)\*全七例

○仰願不可思議弟子先是又有奉為先帝修功德之意(管家文章(散文篇)593)\*全二例

○御前近キ舞ヲ、如然ニ舞ハ不可思議ノ事也(教訓抄102)

○ワヅカニ中一年ニテ不可思議ノヤウイデキニケレバイフバカリナシ(愚管抄166)\*全六例

○佛法希夷不可思議(江都督納言願文集33)\*全六例

○誠に此やう不可思議也。年来花嚴経の中に不審おほかり。悉解脱し給へ(古今著聞集100)\*全六例

○親勝寺ノ大田房上人ノ門徒、不断ニ宝篋印陀羅尼ヲ誦シテ、不可

思議ノ功能多ク風聞ス(沙石集323)

○不可思議(消息詞390)

○おほよそ諸仏の境界は不可思議なり(正法眼蔵77)\*全五例

○比丘衆ノ中ニ、不可思議ノ悪行スルモアリ、最下品ノ器量モアリ(正

法眼蔵隨聞記312)\*全三例

○理趣妙句。无量无边。不可思議(性靈集45)\*全二例

○末世トイヘドモ神明ノ威徳不可思議ナリ(神皇正統記156)

○ソノ徳不可思議ニシテ十方諸有ヲ利益セリ(親鸞集(三帖和讀)55)

\*全三例

○如來の誓願は不可思議にましますゆへに、仏と仏との御はからひ

なり(親鸞集(消息)126)\*全八例

○不可称、不可説、不可思議ノユヘニ(親鸞集(歎異抄)199)

○あまつさへ地りやうをうばわん事、ふかしぎなり(曾我物語55)

○而妙法力不可思議能伏一切(大日本国法花経験記下8)\*全二例

○高僧等ノ神異ハ不可思議ニテ、サテ置ツ(梅尾明恵上人遺訓84)

○管弦ハ堀河院御笛(初句ヲ吹放テ、次句ニ移之間、ツレくナラ

ス不可思議也キ)(富家語29)\*ほか「不可思議」一例

「59御靈会」\*「靈会」の例は省略した

○御靈会のはそおとこのたなごひしてかほかくしたる心ちするに、

このうちのおとこのほゝゑみまぎれさせ給ぞ、いみじうわびしき事

なりける(采花物語下178)

○兵衛府生時重をはじめて六衛府のものども、社をつくりて御靈会

をこなひけり(続古事談47)

「60御齋会」\*「齋会」の例は省略した

○午上罷帰可參御齋会也(貴嶺問答440)

○一条院御時、御齋会之間及夜宿、義照院与千観内供同宿之間、隔

幕寝臥(古事談3-38)

○兼勤御齋会之聴衆(釈氏往来191)

○朝觀行幸臨時客ナトニ著タル織物下襲ハ、ナヨヤカナルヲ參御齋

会時著用常事也(富家語47)

○但形ノ様ニテモ、御齋会ハ可被行ニテ(平家物語上571)\*全二例

○同四年正月に御齋会のうち論義ははしまりしなり(水鏡203)

「61御傍親」

○皇帝所絶、傍親無服者、皇帝皇子、為之降一等(菅家文章(散文篇)

544)

○通親ノ大臣ノ四男、大納言通方ハ父ノ院ニモ御傍親、贈皇后ニモ

御ユカリナリシカバ、收養シ申テカクシヲキタテマツリキ(神皇正統

記161)

「62姑射山」

○帝堯姑射花顔少(菅家文章(詩篇)376)

○姑射山之雪(江都督納言願文集28)\*ほか「姑射」九例、「姑山」「射

山」「藐姑射」各三例、「姑射之山」二例、「姑之神仙」一例

○堯時下為師居姑射山(江吏部集296)\*ほか「射山」一例

○しかのみならず、清涼殿の御遊には、ことごとく治世の声を奏し、姑射山の御賀には、しきりに万歳のしらべをあはす(古今著聞集196)

○いざさらばさかりおもふもほどもあらじはこやがみねの花にむつれ(山家集287)

○抑結願之日、可有射山之臨幸云々(釈氏往来205)

○龍瑞紀官永豫姑射(性靈集295)\*全四例

○姑射遙聞一処子(文花秀麗集296)

○射山仙洞ノ水湊ヲ詠レバ、白浪折カケテ、紫鷺白鷗逍遙ス(平家物語上1865)\*全四例

○はこやの山の峯の松も、やうく枝をつらねて(増鏡278)

○姑射膚 庄子曰藐姑射之山有神人居焉客膚若冰雪云々(幼学指南抄卷二)

○姑射山(幼学指南抄卷四)

○姑射肌 庄子曰藐姑射之山有神人焉肌膚若冰雪綽約若処子(幼学指南抄卷五)

「63 興隆佛法」

○興隆佛法、護念国家、上奉翊過去聖靈等、下普及一切衆生界(菅家文章(散文篇)563)

○仏法こうりうの験たる人にも、さやうにひがごとなどをくはだてんにおひては、ちんもかなはせたまふべからず(義経記262)\*「仏法こうりう」全四例、「仏法をこうりう」一例

○申於公家建立一伽藍、安置興隆佛法(古今著聞集296)\*全二例

○此所是殊勝之靈験之窟也、立伽藍興隆佛法ト思ニ、私力難及、其徳令当帝王給云云(古事談33)

○昔南岳思禪師託生和国。興隆佛法(後拾遺往生伝上)

○是則興隆佛法之媒(雜筆往来438)\*ほか「紹隆佛法」一例

○然而且興隆佛法。可有御存知候(手習覚往来281)

○末代ハ證理ノ智無ケレバ、世間ノ面ヲ莊テ、俗境ニ近付ヲ先トシテ、剩ヘ寺ノ興隆佛法トテハ、田楽ノ猿楽ノ装束ニ心ヲ費シテ一生ヲ暮スノミナリト云々(梅尾明恵上人遺訓63)

○或、有「諸家」氏寺、修不退、勤行、子胤相統、自興隆佛法之所也(平家物語上562)\*ほか「仏法之興隆」一例

「65 金剛不壞」

○よろづにみがきたてさせまゝに、院のうちも金剛不壞の勝地と見えてめでたし(采花物語下61)

○金色薬師佛像一軀、依賢王弘誓之力、保金剛不壞之身(菅家文章(散文篇)605)\*ほか「金剛之不壞」一例

○住「金剛不壞之淨菩提心之座」事表(諸事表白583)

○以無所持而為方便。為発金剛不壞不退願。我自未得相似位以還不出(大日本国法花経験記上3)\*全二例

○生滅トモニ常住ナレバ、金剛不壞ノ法身、我等ガ色身ナリ(道範消息80)

○如來の法身は金剛不壞なり(日蓮集(開目抄)409)

○此徳ちかくは人天のなかに無病長寿の報を得、遠くは無漏道に達して金剛不壞の身を得べし(人となる道376)

○況入壇灌頂シテ、金剛不壞ノ光ヲ放テ、大日遍照ノ位ニノボラム事、明徳ノ中ニテモマレナルベシ(平家物語上225)

○成仏心ニ種々ノ異名アリ。堅固法身ト云ヒ、金剛不壞心ト云、金剛ノ正体ト云、鐵心肝ト云、大丈夫ノ漢ト云、此外モ堅固ナル名多シ(反故集381)

〔66 鴻才博覧〕

○サレド延喜・天曆・寛弘・延久ノ御門ミナ宏才博覧ニ、諸道ヲモシラセタマヒ、政事モ明ニマシクシカバ、先二代ハコトフリヌ、ツギテハ寛弘・延久ヲソ賢王トモ申メル(神皇正統記16)\*全二例  
○終日習学之。通夜可復読之。利根聡敏宏才博覧也(雑筆往来433)  
○当世無双の厚才博覧也(平治物語190)

〔68 妖不勝徳〕

○後漢書曰。帝太戊立伊陟為相。亳有祥。桑穀生於朝。一暮大拱。帝太戊懼問伊陟。陟曰。臣聞妖不勝徳。帝政其有闕敷。帝其修徳。太戊從之。而祥桑枯死。仁勝凶邪。徳除不祥(管蠡鈔223)  
○孔子家語曰。災妖不勝善政。夢性不勝善行(管蠡鈔224)

○但妖不勝徳。仁能却邪云々(新札往来476)

○妖若不勝於徳者、当御代、依政道如法、四海既帰一統畢(尺素往来504)

○加様ノ聖徳ヲ被行コソ、妖ヲバ除ク事ナルニ、今ノ御政道ニ於テ其徳何事ナレバ、妖不勝徳トハ、伝奏ノ被申ヤラン(太平記③166)\*  
ほか「妖ハ不勝徳」二例

〔69 不可勝〕

○燒香又以面白存候(略)縦雖兜樓婆、畢力迦、及海岸六鉢、准仙之百和。不可勝於此候。御所持分、不論新旧、可頒賜候(尺素往来49)  
○予申云、男ニテ坐ストモ殿不知食者、極定四位侍從敷。家隆ニ不可勝敷。僧ニテカクマテ御坐スルハ御力ナリ(中外抄下33)

〔70 朝来暮往〕

○弟子數輩。雖在戸庭。朝来暮往。去留不定(拾遺往生伝上10)  
○爰一猿来住前樹上。終日聞経。朝来暮去。二三月間毎日不闕。来聞此経(大日本国法花経験記下126)  
○朝来暮往無常時(文花秀福集311)

〔71 悪知識〕

○持戒ナレドモ壞見ノ者ハ、悪知識(沙石集120)  
○疑云、当世の念仏宗・禅宗等をば、何智眼をもつて法花経の敵人一切衆生の悪知識とはしるべきや(日蓮集(開目抄)378)\*全一例  
○設ひ聖教に値と云ども、悪知識に値ならば、三悪道に墮入事不可有疑(日蓮集(消息文抄)479)

「73 桑田変」

○桑田縦変、日祭り之儀長伝(古今著聞集127)

「74 造次頼佈」

○遂以出家。造次頼佈。念弥陀仏(三外往生記38)

○沙門平願者。播磨国之住人。性空聖人之弟子也。行往坐臥。造次頼佈。只誦一乘。已經多年(拾遺往生伝中)

○念念歩歩造次頼佈。折リ臨終正念御。諸事表白(620)

○行住坐臥。現無礼。造次頼佈。到濫吹(雜筆往来420)

○其後、人々のゆくゑをきけば、おのくしゆくしよにかへり、き

つるほうものごとく、さうしてんばい、いつしんぷらんになん

ぶつす(曾我物語424)

○一生之間。偏修浄土之業。造次頼佈。唯念仏号(続本朝往生伝37)

○口唱名号。心観相好。行住坐臥暫不忘。造次頼佈必於是(日本往生

極楽記序)

○河内国石川東修水文化社禰宜利国。常唱弥陀宝号。造次頼佈。唯称

念仏(本朝新修往生伝7)

「75 糟糠妻不垂堂」

○後漢書曰。貧賤之友不可忘。糟糠之妻不可下堂(管蠡鈔283)

○宋弘申ていはく、「貧賤之知音不可忘、糟糠之妻不可垂堂、といふ

本文の侍るに、我、むかしまうしかりしときよりあひぐしたる妻あ

り。かれをさりて王女をあひぐしたてまつること、えなんあるまじ

き」と申ける(続古事談6-9)

○漢書ニ云ク、「貧賤ノ知人ヲ不可忘、糟糠ノ妻ヲ不可下(堂)ト

テ、貧キ時ノ知人ヲバ、富ラム時ワスレズ、賤妻ヲバ不下ト云ヘリ)沙

石集144)

「77 狐借虎威」

○世間ニ狐ハ虎ノ威ヲ借ト云フ事ハ此レヲ云フトノ語リ伝ヘタルト

ヤ(※今昔物語集①386-7)

○用于狐借虎皮之勢(日本靈異記422)

「79 明後日」

○自明後日廿一日、若宮御參籠、御精進之間。大小御沙汰不可有之

由(鎌倉往来567)

○我、此ノ寺ノ事勤メ畢。今ハ明後日ノ夕方帰ナムトス(※今昔物語

集③164-13)\*全一〇例

○上人相語云。明後日可滅度也。仍今日沐浴。次日又沐浴(三外往生

記34)

○自明後日可令始行候之間、無何纏頭仕候(山密往来378)

○明日進ゼム、明後日奉加セムナンド思程ニ(沙石集281)

○俄爾長太息云。予明後日可焼身。今生謁見。只在此時。其処所謂

撫河郷紫津岡也(拾遺往生伝中23)

○其表属御手、明後日可有御開陣之由(消息手本(村田經次學習手本)

413)

○君は明日、伊づのこう、明後日、かまくらへいらせましますよし、  
其きこえ有(曾我物語323)

○以明後日詣浄土辺(大日本国法花経験記中74)

○明日カ明後日カノ間ニゾ寄センズラン(太平記②45)\*全二例

○又今明不房内、明後日(還日)不憚諸事(中外抄上122)

○可然者、明後日許、可參上候也(南都往来94)\*全二例

○尼及衰暮。唯念弥陀。語僧都曰。明後日可詣極樂。此間欲修不断

念仏。僧都令衆僧三箇日夜(日本往生極樂記2)

○然者明後日、可有御同道也(蒙求臂鷹往来39)\*全七例

#### 「81御息所」

○承元三年三月十日、十八ニテ東宮ノ御息所ニマイラレニケリ(愚管抄296)

○寛平法皇、与京極御休「息歎」所同車、渡御川原院、歴覽山河形勢(古事談12)\*全四例

○昔天曆御時元方ノ民部卿ノムスメ御息所、一ノミコ廣平親王ヲウ

ミタテマツル(神皇正統記139)

○何カ苦ク候ベキ。御息所ヲ恐デ此へ入進セラレ候へ(太平記②254)

\*全二八例

○ちゝみこの、將軍にておはしましたし時のみやす所也(増鏡393)

#### 「82神今食」

○十二月四日ナルニ、十二月ハ神今食ノ神事トテキビシケレバ(愚管

抄174)

○御修法ハ真言院、神今食ハ神嘉殿、真弓・競馬ヲバ、武徳殿ニシテ被御覽(太平記①399)\*全二例

○仰云、主上大嘗会ニ神御陪膳令勤仕給事、神今食中院行幸之時同事也(富家語91)

#### 「84兒女子」

○又、兒女子牛飼童、酒酔郷之姿作舞(教訓抄71)

○兒女子ガ口遊トテコレヲオカシキウトニ申ハ、詩歌ノマコトノ道ヲ本意ニモチイル時ノコトナリ(愚管抄322)

○兒女子之愚。何一到於斯(続本朝往生伝37)

#### 「85勝他心」

○勝他ノ心ニテトクハ、中品ノ法施也(沙石集386)\*「勝他ノ心」全三例

○昔僧賀聖籠弟子八人於此山。令学仙道。其身漸踏薄楹板至於不撓。

各有勝他心。每朝至見風处。相難云。爾有米糞。然者皆不得仙罷矣(本朝神仙伝38)

#### 「87无所詮」

○若又効験ナクハ、面謁ニ所詮ナカルベシ(平家物語上291)

#### 「88序破急」



○今常樂舞之。僅ニ序破急ガ略五拍子許也(教訓抄<sup>80</sup>) \*全二例  
○今案者、序ハ破歟。破者又急也(教訓抄<sup>15</sup>) \*「序破」「破急」「序  
「破」「急」の例多数)

「90 死生不知」

○この事あやしくて、在地に披露しければ、死生不知の村人ども評  
定して、「いざ行てみん」とて、そこばくきたりて、門に登てみけれ  
ば、いとなまやかなる女房一人ふしたりけり(古今著聞集<sup>343</sup>)

○ししやうふちのげ道ども、おめきさげびて、みだれ入るときに(曾我  
物語<sup>247</sup>)

○城中ニハ死生不知ノアブレ者共、此ヲ先途ト命ヲ捨テ戦フ(太平記

③ 125) \*全二例

○富部三郎ガ郎党ニ、杵淵小源太重光ト云、死生不知ノ兵アリ(平家  
物語上<sup>656</sup>) \*全六例

「93 支度相違」

○アダニ御支度サウイノ事ニテ、ムゴニ御案アリテ、別ニ宣旨ヲク  
ダサレテ(愚管抄<sup>195</sup>)

○此ノ別当ハ年来和太利ヲ役ト食ケレドモ不酔ザリケル僧ニテ有ケ  
ルヲ不知デ、構タリケル事ノ支度違テ止ニケリ(※今昔物語集<sup>504</sup>)

◎ \*「支度違」全四例

○サテ支度相違シテ、カヘツテ売レテ責メ仕ハレケリ(沙石集<sup>204</sup>)

○不知、老少ハ不定ナレバ、若シ老母ハ久ク止マツテ、我ハ前ニ去

コトモ出来ラン時ハ、支度相違セバ、我ハ仏道ニ不入ラクヤミ、老  
母ハ不許罪ニ沈テ、兩人共ニ益ナクシテ、互ニ得罪時如何(正法眼藏  
隨聞記<sup>393</sup>)

○サレバ直冬大勢ニテ上ラント被議ケルガ、其支度相違シタリケリ  
(太平記<sup>369</sup>) \*全七例

○源氏ノ支度ニスコシモタガワズ(平家物語下<sup>33</sup>)

「94 上求下化」

○上求下化勤修。自利利他行願(高野山往生伝<sup>28</sup>)

○じやうぐぼだひのひざよろひ、げしゆじやうのすねあてし(曾  
我物語<sup>248</sup>)

「95 自讚毀他」

○罵言嫉妬。自讚毀他。遊蕩放逸。無慚無愧(三教指帰<sup>14</sup>)

「96 自行化他」

○只守土風、尋常行仏道居タラバ、上下ノ誓自作供養ベシ、自行化  
他成就セン(正法眼藏隨聞記<sup>36</sup>) \*全二例

○既含自行化他二徳(性靈集<sup>415</sup>)

○サレトモ菩薩ノ行、不<sub>レ</sub>離<sub>レ</sub>自行化他、諸事表白<sup>598</sup>  
○如是思惟。勸他説誦。自行化他。功德圓滿。永帰無常焉(大日本国

法花経験記上<sup>1</sup>) \*ほか「自行既熟。為化他故」一例

○自他平等なれば、自行が即化他なり(秘密安心又略<sup>365</sup>)

「97 師資相承」

○前聖後賢。師資相承。古往今來(江都督納言願文集45)

○高祖大師者、師資相承、印信兩部兼備許可状。慇懃之文書。丁寧證驗也(十二月消息318)

○師資相承、至于今日。無一代中絶(新礼往来479)

○夫所以用契密对註者、必為令師資相承也(東山往来拾遺43)

○サテモ天台宗ハ南岳、天台共ニ靈山ノ聽衆トシテ、震旦ニ出給テ、

仏法ヲ弘メ給シヨリ、師資相承セリ(平家物語上87)

「98 子々孫々」

○やすひらがよしつねをうちたらば、ほんりやうにひたちをそへて、

子々孫々にいたるまで給はるべきよしなり(義経記370)

○タゞ予ガ子孫ノ末ニモ不審ヲヒラケト也。予ガ子々孫々ノサイカ

ク、コレニスグベカラズ事(教訓抄28)

○子々孫々遊万歳之陰。年々歳々宿千丈松之月(江都督納言願文集20)

3) \*全二例

○すけちかがみにをきて、ししやうの大事、しんそんくまで、

これにしくべからず候(曾我物語5)

○人々イカニ申トモ、キミ君ニテ渡ラセ給ハミ、争カ入道ヲバ子々

孫々マデモ捨サセ給ベキ(平家物語53) \*全八例

○或ハ無罪ノ家人ヲ殺テ財宝ヲ取タル者、子々孫々ニ到迄、取殺タル

怨靈、方々ニ有之(反故集28) \*全二例

「99 生天得果」

○経文「一瞻一礼、功德、猶<sub>レ</sub>説<sub>レ</sub>生天得果、因也」(諸事表白620)

「102 衆大吠声」

○朝野合載曰。一犬吠形。千犬吠声。一人伝虚。万人伝実(菅蠡鈔287)

「103 駟不及舌」

○三寸舌端駟不及(菅家文章(詩篇)186)

○駟馬如龍不及舌(菅家文章(詩篇)202)

「104 士知己死」

○女為悦己者客(略)士為知己者死女為悦己者容(略)(※世俗諺文)

○「しはをのれをしるものゝために、かたちをつくらふ」と、もん

ぜんのことばなるをや(曾我物語223)

「107 非学生」

○弟子モゲニ非学生ナリケリ(沙石集12) \*全二例

○多ク不知、非学生トコソ、云レンズレドモ、其ハ苦シカラズ(梅尾

明恵上人遺訓69)

「107 非学生」

○多ク不知、非学生トコソ、云レンズレドモ、其ハ苦シカラズ(梅尾

明恵上人遺訓69)

○多ク不知、非学生トコソ、云レンズレドモ、其ハ苦シカラズ(梅尾

明恵上人遺訓69)

○多ク不知、非学生トコソ、云レンズレドモ、其ハ苦シカラズ(梅尾

明恵上人遺訓69)

○多ク不知、非学生トコソ、云レンズレドモ、其ハ苦シカラズ(梅尾

明恵上人遺訓69)

○多ク不知、非学生トコソ、云レンズレドモ、其ハ苦シカラズ(梅尾

明恵上人遺訓69)

○多ク不知、非学生トコソ、云レンズレドモ、其ハ苦シカラズ(梅尾

明恵上人遺訓69)

「108 非参議」

○件度内大臣以下至中納言實平卿乘車、兼頼卿以下至非参議三位皆騎馬(江談抄128)\*全二例

○此外先官ノ公卿、非参議、七弁八座、五位六位、乃至山門園城ノ僧綱、三門跡ノ貫首、諸院家ノ僧綱、并ニ禅律ノ長老、寺社ノ別當神主ニ至マデ我先ニト馳参リケル間(太平記315)

○非参議ニテ、二位中将ヨリ宰相大納言大将ヲ不経シテ、大臣関白

ニ成給ヘル例、是ヤ始ナルラム(平家物語88)\*全二例

○大中納言・二位三位・非参議・四位五位などは、ましてかずしらず(増鏡363)

「110 非常人」

○相順処ノ眷属共、皆非常人、八臂六足ニシテ鉄ノ桶ヲ挟ミ、三

一体ニシテ金ノ鎧着セリ(太平記141)

「111 昭陽殿」

○又問云、昭陽殿翫花之戸、芳塵凝分不私(江談抄216)\*全二例

○於戲昭陽殿之佳人(江都督納言願文集93)\*全二例

○昭陽殿裡恩愛絶、蓬萊宮中日月長トナン恨給ヒテ、中々御言葉モ

ナケレバ、玉容寂寞淚欄干タリ(太平記326)

○彼漢ノ李夫人ノ、昭陽殿ノ病ノ床ニ臥タリケムモ、カクヤ有ラム(平

家物語上234)

「114 聖人無一言」

「115 善知識」

○君子無一言、論言如汗(雜筆往来33)

○仏語に一言なし(日蓮集(開目抄)349)

○天子に二言なしと云。争か虚言をし給べき(日蓮集(消息文抄)82)

「115 善知識」

○三には善知識の教にしたがはざる(言芳談207)

○なんぢ沙弥は、海雲比丘のぜんちしきにあひて、文殊をよくおがみ奉りけるにこそありけれ(宇治拾遺物語387)

○よろづにかたくにおぼしえて、まごころに念仏させ給はゞ、我御ための善知識ともなり、まうじやの御ためぼだいのためよりも

ならめ(采花物語下226)\*全三例

○因善知識、得安樂果(菅家文草(散文篇)613)\*全三例

○中将入道ハ三井寺ニテ、御堂ノ御薨逝ノ時ニモ、善知識ニ候ハレケルナドコソ申ツタヘタレ(愚管抄122)

○我今出娑界。欲赴安養。各念弥陀仏。可作善知識(高野山往生伝6)

○抑我善知識は、いづれの所より誰の人の来給へるぞ(古今著聞集(4)

\*全一〇例

○而間保延二年十月十五日。俄有病氣。衆人扶持。忽以沐浴。其翌日逢善知識(後拾遺往生伝下11)\*全七例

○明日已剋。是入滅之期也。可為善知識(三外往生記38)\*全二例

○但十惡五逆者ノ往生ストイフモ、善知識ニ逢テ、我十念ヲ唱テコ

ソ、来迎ニアツカリ、極楽ニモ生ズル事ナレ(沙石集22)\*全一九例  
○自伝。病是真善知識也。我依病痾。弥厭浮生云々(捨遣往生伝下56)

\*ほか「善友知識」一例

○禪師はこれ天下の善知識、又五百人の大導師なり(正法眼蔵33)\*

全六例

○善知識ニ隨テ、衆ト共ニ行テ私ナケレバ、自然ニ道人也(正法眼蔵

隨聞記23)\*全五例

○善知識善誘之力(性靈集363)

○此「子息」是「我」善知識(諸事表白616)\*全四例

○善知識ニアフコトモオシフルコトモマタカタシ(親鸞集(三帖和讃)

57)

○マタ、十悪五逆ノ罪人ノハジメテ善知識ニアフテ、ス、メラル、

トキニイフコトバナリ(親鸞集(消息116)\*全一〇例

○命終ノトキ、ハジメテ善知識ノオシヘニテ、一念マウセバ(親鸞集

(歎異抄)206)

○仏、是をあはれみ給て、阿なんそんじやを遣奉て、ぜんちしきた

ち、いんどうし給けるとかや(曾我物語270)

○中将と契りをなして、おなじくゆきてかしらそられにけり。善知

識にあへるなるべし(続古事談2-58)

○臨終之烈。逢善知識僧(宝増)(続本朝往生伝84)

○沙門運長。桜井長延聖往昔同行善知識矣(大日本国法花経験記中60)

\*ほか「善友知識」一例

○夢窓ハ此比天下ノ大善知識ニテ、公家武家崇敬類ヒ無リシカバ(太

平記②65)\*全二例

○龍樹者極楽菩薩。為往生善知識也(東山往来102)

○善知識と申は、一向師にもあらず、一向弟子にもあらずある事な

り(日蓮集(開目抄)36)\*全四例

○我をたすくる日蓮をかたきとをもひ、大怨敵たる念仏者・禪・律

・真言師等を善知識とあやまてり(日蓮集(消息文抄)463)

○逢善知識十念往生。予每見比輩弥固其志(日本往生極楽記序)

○見紫雲之人四人。同巳時依善知識勸(念仏往生伝35)\*全二例

○或は善知識にあひ、或は内鑑明了にして、法の邪正をしり、事の

真偽を弁ず(人となる道393)

○有ガタルベキ善知識ナリトテ、弥ヨ彼ノ後世ヲ訪ヒケル(平家

物語上68)\*全一二例

○早善知識ヲ求テ、出離ノ道ヲ修行スベシ(反故集307)

○保延二年十月十六日卒。最後遇善知識(本朝新修往生伝31)\*全一

一例

○いとありがたきぜんちしきにぞ、こ女院はおはしける(増鏡407)

○又かならず善知識となり給へといへは修行者いとうれしき事なり

(水鏡②)\*全二例

「116 先祖相傳」

○此久行之『探桑老』モ、先祖有相伝トモ不聞(教訓抄74)

○せんぞさうでんのしよりやう、いとう・かわづのかたをみやりて

(曾我物語125)

○先祖相伝ノ主ヲ帰チウシテ、滅シタル不当仁ヲバ争カ可有(平家物語 467)

○先祖相伝して既維行迄は三代に罷成(保元物語 101)

【参考文献】

\*用例の所在は原則として頁数によって示した。

【管蠡鈔】

片淵琢編(1900)「博覧古言(一名・管蠡鈔)」(偉業館)

【教訓抄】

日本思想大系 23 (1973)「古代中世芸術論」(岩波書店)

【江都督納言願文集】

平泉澄校勘(1939)「江都督納言願文集」(至文堂)

【諸事表白】

天台宗典編纂所編(1996)「声明表白類聚(續天台宗全書 法儀

1)」(春秋社)

【平家物語】

北原保雄・小川栄一編(1990-1996)「延慶本平家物語」(勉誠

社)

【水鏡】

神原邦彦編(1990)「水鏡 本文及び総索引」(笠間書院)

【幼学指南抄】

卷二、五、一六、一九、二三、二五、二七

↓古典籍複製叢刊(1979)「幼学指南抄(大東急記念文庫・梅澤記念館)」(雄松堂書店)

卷三、四、九、一三、一四、一七、一八、三〇

↓木村晟編(1996)「幼学指南抄」(故宫博物院本)(大空社)

【梁塵秘抄】\*数字は歌番号

小林芳規・神作光一編(1972)「梁塵秘抄總索引」(武蔵野書院)

【類聚名義抄(図書寮本)】

宮内庁書陵部蔵(1976)「図書寮本類聚名義抄」(勉誠社)

【江談抄】【中外抄】【富家語】\*数字は条番号

新日本古典文学大系 32 (1997)「江談抄 中外抄 富家語」(岩

波書店)

【江吏部集】【貴嶺問答】

群書類従第九輯(文筆部・消息部)(訂正三版1960)

【古事談】【続古事談】\*数字は巻(1)との説話番号

新日本古典文学大系 41 (2005)「古事談 続古事談」(岩波書店)

【東山往来】【東山往来拾遺】【南都往来】【鎌倉往来】

【御慶往来】

日本教科書大系第一巻(1968)「古往来(1)」(講談社)

【釈氏往来】【手習覚往来】【山密往来】【十二月消息】

【蒙求臂鷹往来】【消息詞】【常途往来】【消息手本】【雜筆往来】

【雜筆略注】【新札往来】【尺素往来】【拾要抄】【大乘院雜筆集】

日本教科書大系第二卷(1987)「古往来(二)」(講談社)

【宇治拾遺物語】【栄花物語】【仮名法語集】【菅家文草 菅家後集】

【義経記】【愚管抄】【古今著聞集】【山家集】【三教指帰】【沙石集】

【正法眼蔵】【正法眼蔵随聞記】【性靈集】【神皇正統記】【親鸞集】【曾

我物語】【大平記】【日蓮集】【日本畫異記】【文華秀麗集】【平治物語】

【保元物語】【増鏡】【和漢朗詠集】

日本古典文学大系(岩波書店)

【日本往生極楽記】【大日本国法華驗記】【統本朝往生伝】

【本朝神仙伝】【拾遺往生伝】【後拾遺往生伝】【三外往生記】

【本朝新修往生伝】【高野山往生伝】【念仏往生伝】

\*数字は説話番号

日本思想大系7(1976)「往生伝 法華驗記」(岩波書店)

(ふじもと あかり 大学院人文社会系研究科 博士課程二  
年)